

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和6年11月12日（火）
- 2 確認箇所
車両スクリーニング場（図1）
- 3 確認項目
2号機燃料デブリ試験的取り出し作業の状況

4 確認結果の概要

2号機においてテレスコピック式試験的取り出し装置（以下「テレスコ装置」という。）による燃料デブリ^{*}試験的取り出し作業が8月22日から実施されており、9月9日にテレスコ装置先端部が原子炉格納容器隔離弁を通過し、作業着手となった。

その後、テレスコ装置先端カメラの不具合等により、作業が一時中断されたが、10月28日に取り出し作業が再開され、燃料デブリ把持・吊り上げに成功した。

採取した燃料デブリは11月5日に取り扱える線量（24mSv/h以下（20cm位置））であることを確認し、11月8日にグローブボックス内で重量等の測定を行った後、構外輸送容器へ収納し構内一時保管施設まで輸送が行われた。

本日、東京電力より採取した燃料デブリを茨城県の日本原子力研究開発機構大洗原子力工学研究所に向けて輸送する作業を実施すると協定に基づく通報があったことから、その状況について確認した。（前回確認：[令和6年11月8日](#)）

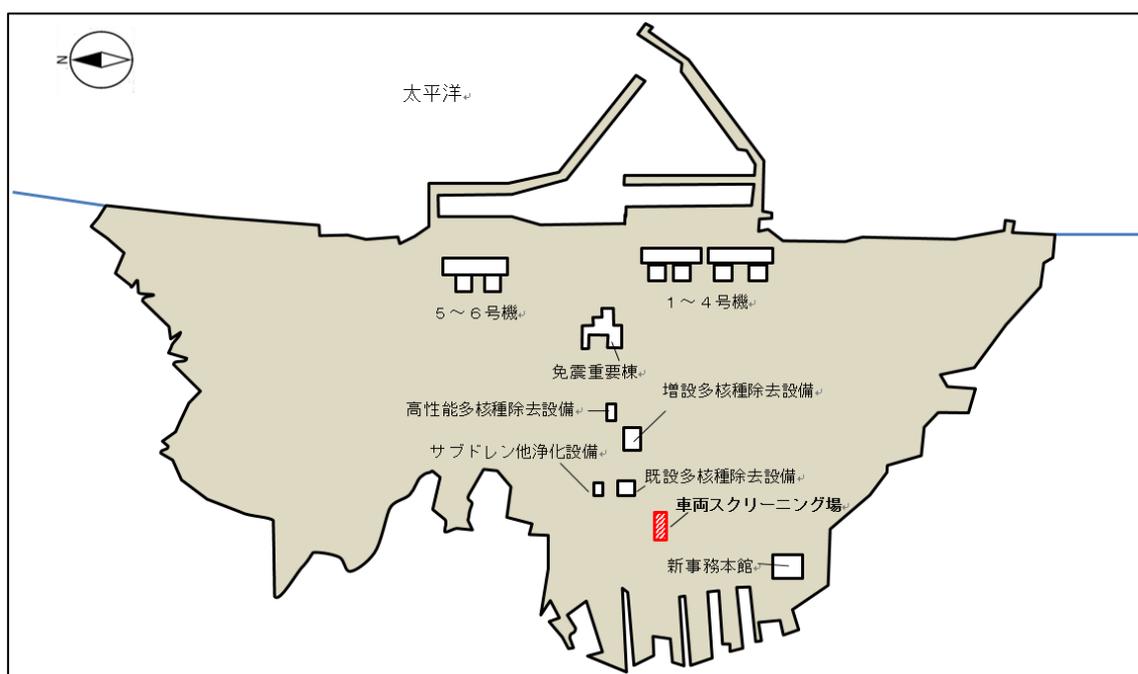
【確認結果概要】

- ・構内一時保管施設から構外輸送容器をトラックに積載する作業が開始された。
- ・トラック荷台に積載した構外輸送容器をベルト等で固定した後、固定状況の確認作業が行われた。
- ・確認作業後車両スクリーニング場に向けてトラックが移動した。
- ・トラックが車両スクリーニング場に到着後、荷台上に作業員が乗り込み、汚染状況の確認作業が行われた。その後、車両表面及び1m地点の線量測定が行われ、輸送基準を満たしていることを確認した。
- ・輸送基準を満たしている旨の確認後、日本原子力研究開発機構大洗原子力工学研究所に向けてトラックが出発した。
- ・作業は指揮者からの指示の下、適切に実施されていた。

- ・東京電力によれば、14時41分に輸送を完了したとのことであり、今後1年程度をかけて分析施設で分析し、今後実施予定の燃料デブリ取り出し工法および安全対策や保管方法の検討等に活用するとのことである。

※ 燃料デブリ

過熱した燃料が燃料被覆管や炉内構造物等とともに溶融し、その溶融物が冷えて固まったもの。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータに異常な値は確認されなかった。